

Cは0になり、そのままの風となるから、平衡状態を記述することがこの場合もやはり賢明な解説ということになる。

## 文献

1) Petterssen, 1958: Introduction to Meteorology, 好学社, 152.

- 2) 斎藤鍊一, 1968: 気象の教室, 東京堂出版, 137.
- 3) 堀 健夫, 大野陽朗, 1970: 物理学総論上巻, 学術図書出版社, 107.
- 4) 朝永振一郎編, 1970: 物理学読本, みすず書房, 30 (この項は福田・宮島).
- 5) 筆者, 1971: 気象学100年の進歩, 気象研究ノート 106 (日本気象学会), 61~64.
- 6) 筆者, 1967: 地衡風卓越の原理, 天気, 14, 69.

## 第18期 第14回常任理事会議事録

日時 昭和51年2月23日(月) 14.00~16.30

場所 気象庁東京管区気象台会議室

出席者 磯野, 小平, 浅井, 朝倉, 大井, 奥田, 神山, 河村, 高橋, 二宮, 野本, 丸山, 各常任理事

### 報告

〈庶務〉

「天気」および「大会予稿集」の広告掲載に関し、株式会社科学技術社と2月10日契約書を取り交わした。

〈地物研連〉

日本学術会議第10期地球物理学研究連絡委員会委員(測地, 地震, 地球電磁気, 気象, 陸水, 海洋, 火山の7分科会)の初会合が2月18日日本学術会議において行われ, 全体の委員長に磯野謙治理事長が選ばれ, 気象分科会委員長には, 岸保勘三郎会員が選ばれた。

磯野理事長から気象学会と気象分科会とが連絡を密にするとの発言があった。

〈気象集誌〉

ページチャージの改訂は, 54巻2号の分から実施する。

### 議題

1. 学会賞, 藤原賞の受賞候補者推薦について

1月29日気象庁海洋気象部会議室で推薦委員会を開き各候補者を選定した。候補者は次のとおりであるが選定規定により全理事の書面審査により決定する。

学会賞 廣田 勇 (京都大学助教授)

学会賞 近藤 純正 (東北大学助教授)

藤原賞 和田 英夫 (函館海洋気象台長)

学会賞が2名推薦されているが, 付帯決議として次回からは, 必ず1件を推薦することを確認。

2. 学会賞, 藤原賞の受賞者選定基準について

岡田賞, 藤原賞は, 受賞内容が同じであるため, 岡田賞を受賞したものには藤原賞は出さない。

また, 学会賞, 藤原賞は, 同一人物に出せることを申

し合わせた。

3. 奨励金

奨励金の受賞者に気象庁以外のものが入りやすくなるよう委員会で配慮する。また, 金額は15万円(1件5万円)として学会財政に余裕が生じたら1件7万円に上げるよう考慮する。

4. 昭和51年度予算(案)について

担当理事から昭和51年度予算(案)について説明があった。大要は次のとおり。

(1) 会費は順調に, はいってきているので前納率95%として収入を見込んだ。

(2) 会員については, 不況を反映してか団体で減少しているのが目立っている。

(3) 広告代1,690,000円の収入増を見込んだ。

(4) 支出では, 郵便料の値上げにより郵便料2.5倍, 郵送料60%アップとして計上した。

(5) 事務費は, 10%アップを見込んだ。

(6) 学会賞, 藤原賞の賞金は, 物価高の折柄1件7万円として計上する。

5. 構造物の耐風性に関する第4回シンポジウムの運営委員の推薦について

次の2名を推薦することを了承。

竹内 清秀 会員

根本 茂 //

6. 総会の提出議題について

学会賞, 藤原賞の賞金の増額について。

7. その他

(1) 夏季大会の運営について

講演企画委員会がタッチするが, 独立した機関でやるようにする。

(2) 昭和51年度秋季大会におけるシンポジウム(地形と豪雨)について

開催地である中部支部からの申し出を了承。

承認事項, 黒田雄紀ほか13名の入会を承認。